

あん摩マッサージ指圧はりきゅう教員養成機関在籍者の背景と 進学動機・在籍目的に関するアンケート調査

嶺 聡一郎¹⁾²⁾

1) 社会鍼灸学研究会 2) 専門学校 首都医校

【はじめに】

鍼灸師の資質向上のため、卒後教育の必要性がいわれて久しい。また、はり師・きゅう師養成校の卒業年次生の約 80%も、卒業後の研修を希望している¹⁾。このような状況に応じて卒後研修制度を整備した専門学校、大学、学校付属機関も存在し²⁾、「国民のための鍼灸推進会議」が運用する研修制度も開始されている。しかし一方で、制度上の位置付けをもつ卒後教育の場は、1983年以降あん摩マッサージ指圧はりきゅう教員養成機関(以下、教員養成課程)だった。

教員養成過程は鍼灸専門学校の教員を生み出すことと鍼灸教育の質の向上を目的に設置されており、かつては教員志望者が在籍することが多かったと考えられる。しかし、公的な卒後研修制度が存在しない現況に鑑みると、その在籍者には教員志望者のみならず、知識や経験、臨床経験を身に付ける「卒後研修」のために進学した者もいることが考えられる。

本調査では教員養成課程在籍者の背景、進学動機、在籍目的を把握することを試み、今後の鍼灸卒後教育のための基礎資料を得ることを目的としている。

【目的】

教員養成課程学生の背景、進学動機、在籍目的を調査し、その実状と意識を把握する。

【対象と方法】

1. 対象

2015年4月現在、教員養成過程を設置している7校の在籍者全員を対象とした。

2. 方法

質問紙によるアンケート方式を用いた。

各校の教員養成過程責任者へ予め電話で調査主旨を伝え、協力を要請し、アンケートの配布、実施、回収を依頼した。

調査期間は2015年7月10日～8月10日とした。以下にアンケート内容を示す。

【結果】

アンケートの送付数は164であり、無回答と択一式回答に複数回答があった場合を無効回答票とした。その結果有効回答票は105となり、有効回答票の回収率は64.0%となった。

(1) 回答者のプロフィール

回答者の平均年齢は32.1歳SD±9.2、男女比は16:9で男性が多く、在籍学年は1年生:2年生の比率は13:12であった。

保持している免許については、あん摩・指圧・マッサージのみの1療免許保持者が2.9%、はり・きゅうの2療免許保持者が54.3%、いずれも取得した3療免許保持者が42.9%だった(図1)。

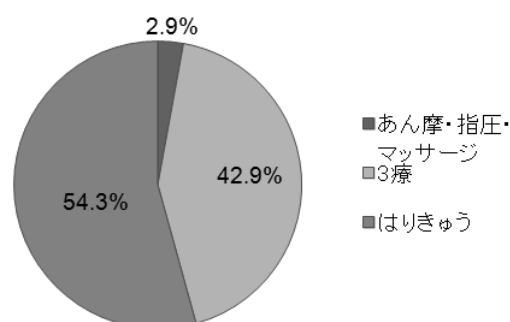


図. 1 回答者の免許

他の医療職免許をもつ回答者は19%であり、そのうち最も多いのは柔道整復師免許保持者であった(図2)。

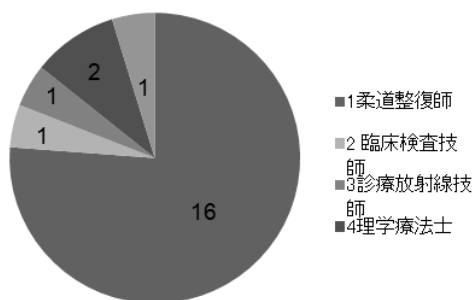


図. 2 他の医療職免許の保有状況

免許取得後、教員養成科への進学までの期間を調査したところ、免許取得年に進学した学生が最多で82.7%であった(図.3)。臨床頸経験については84.6%が無かった(図.4)。

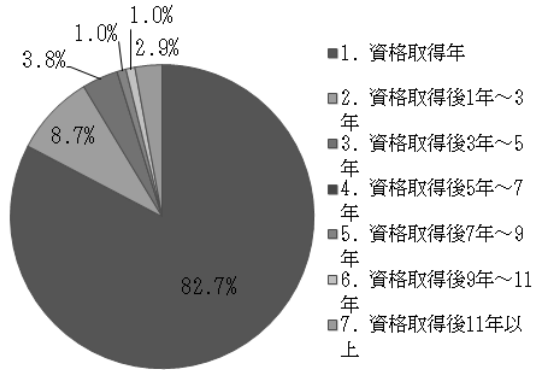


図.3 免許取得から教員養成過程入学までの期間

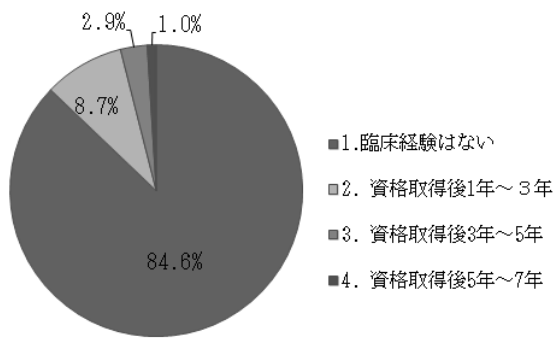


図.4 教員養成過程入学前の臨床経験

(2) 質問への回答

① 進学動機

「教員養成過程に入学したのはなぜですか」との質問に対しては、研究目的と無目的を除く全ての選択肢に対して、「当てはまる」、「やや

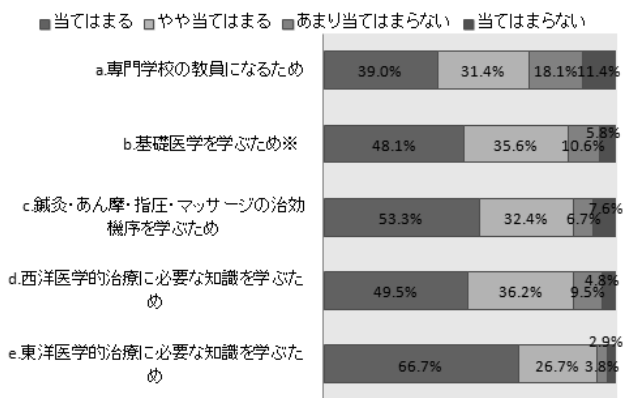


図.5-1 教員養成過程進学の目的

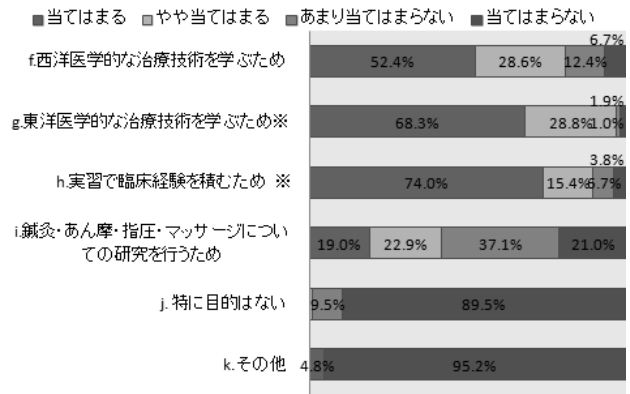


図.5-2 教員養成過程進学の目的

当てはまる」とした回答の合計が過半数以上となった。(図.5-1,5-2)

② 現在の目的

「現在、卒業までの目的としていることはなんですか」という質問に対しては、「特に目標はない」という回答以外で、「当てはまる」、「やや当てはまる」とした回答の合計が過半数となった。(図.6-1,6-2)

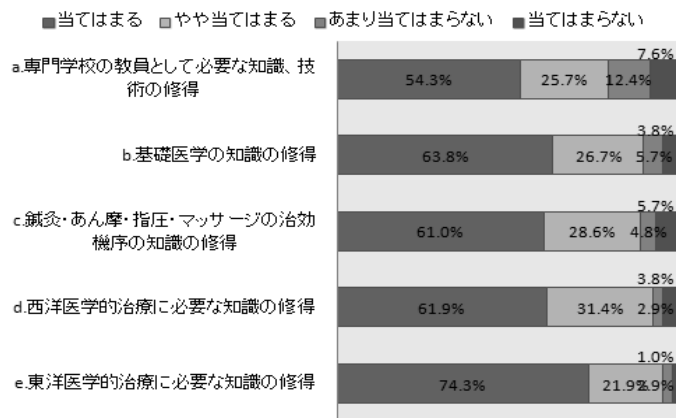


図.6-1 現在の目的

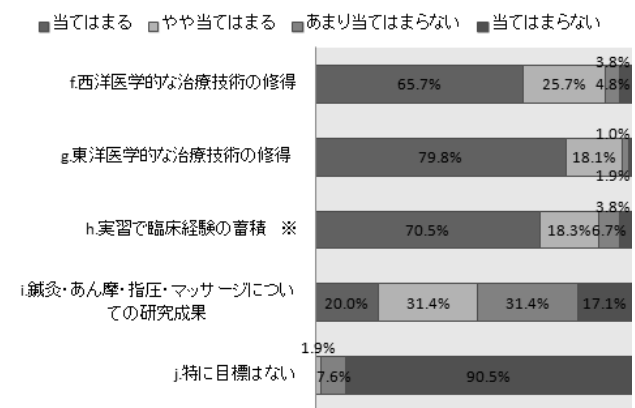


図.6-2 現在の目的

③卒業後の希望進路

卒業後の希望進路としては、専門学校専任教員、治療院開業、治療院勤務、専門学校非常勤教員の順で多かった。研究職を志望する者はいなかった(図. 7)

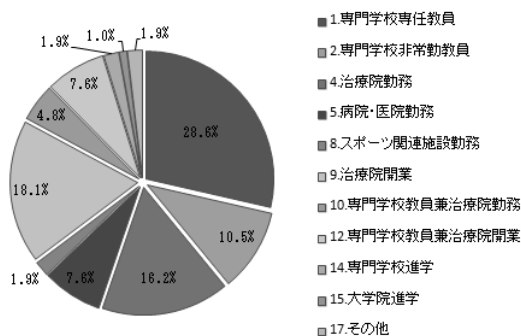


図. 7 卒業後の希望進路

④卒業研修の必要性

卒業研修については、「必要」という回答が81.0%であり、卒業後に一定の研修期間が鍼灸に必要とする意見が多かった。

【考察】

今回の調査は教員養成過程を設置する各専門学校の協力により、対象の全数に近い調査となった。

「卒業後の希望進路」の回答をもとに、有効回答票のうち「専任教員」、「非常勤教員」、「治療院勤務と教員」、「治療院開業と教員」と回答した学生を教員志望群、それ以外の学生を非教員志望群として割合を算出したところ、回答者の48.6%が非教員志望群となった(図. 8)。

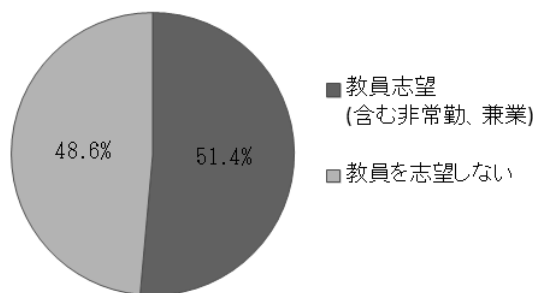


図. 8 教員志望者と非教員志望者の割合

進学動機についての質問で「専門学校の教員になるため」、現在の目的についての質問で「専

門学校の教員として必要な知識、技術の修得」という選択肢に「当てはまる」、「やや当てはまる」とした回答が70~80%占めたことは、矛盾が生じている。

一方で、免許取得後すぐの入学者、臨床経験の無い入学者が共に80%をこえることも考え合わせると、教員となるために必要な教育課程としてではなく、「卒業研修」として教員養成過程へ進学している可能性が示唆される。

このため、教員志望群と非志望群の間で進学動機、在籍目的に差が見られるかを検討した。

Q1、Q2の回答について「当てはまる」、「やや当てはまる」としたものを肯定的回答、「あまり当てはまらない」、「当てはまらない」としたものを否定的回答として、Q1-aとQ2-a、Q1-hとQ2-hでの回答を教員志望者、非志望者ごとに集計し(表. 1-1, 1-2, 表 2-1, 2-2)、2群間で有意な差があるかを χ^2 検定を用いて検討した。差の有意水準は0.05未満とした。

表1-1 Q1-a「専門学校の教員になるため」への回答

	肯定的(選択肢1,2)	否定的(選択肢3,4)	計
教員志望	53	1	54
非志望	21	30	51
計	74	31	105

表1-2 Q2-a「専門学校の教員として必要な知識、技術の修得」への回答

	肯定的(選択肢1,2)	否定的(選択肢3,4)	計
教員志望	52	2	54
非志望	32	19	51
計	84	21	105

表2-1 Q1-h「実習で臨床経験を積むため」への回答

	肯定的(選択肢1,2)	否定的(選択肢3,4)	計
教員志望	47	7	54
非志望	46	4	50
計	93	11	104

表2-2 Q2-h「実習での臨床経験の蓄積」への回答

	肯定的(選択肢1,2)	否定的(選択肢3,4)	計
教員志望	47	6	53
非志望	46	5	51
計	93	11	104

Q1-aとQ2-aに対する回答については、教員志望群と非志望群の差は有意であった($p < 0.05$)。これは予測できる結果といえる。

一方で、臨床経験の蓄積に対する肯定的回答は、非志望群が教員志望群に比して有意に多いと予測したが、Q1-hとQ2-hに対する回答の検討では、両群に有意な差はなかった($p < 0.05$)。

このことから、教員志望の有無にかかわらず、教員養成過程在籍者の志望動機と在籍目的として、「臨床経験を積めること」が大きな要因となっていると考えられる。

教員を志望しない学生が教員養成過程に存在し、その進学・在籍理由に臨床経験を積みたいという希望があることは確かである。このことは、教員養成過程を卒後研修と認識する進学者・在籍者の存在を示す。同時に、教員を志望する学生についても同様の傾向がみられることから、教員志望者にとっても教員養成過程が卒後研修と位置付けられていることが示唆される。

【結論】

教員養成過程在籍者の82.7%が免許取得直後に進学し、84.6%が臨床経験の無い状態で進学していた。

教員養成過程在籍者には、教員になることを目標としない群が存在し、その進学理由・在籍目的として臨床経験を積むことが大きい。教

員志望者にも同様の傾向が認められた。これらのことから、教員養成過程が「臨床経験を積める卒後研修機関」として認識されていることが考えられる。

【謝辞】

教員養成過程を設置する各専門学校には今調査への協力をご快諾いただいた。また、各養成過程の学科長の先生方には、お忙しい中で調査依頼へのご対応とアンケートの実施への全面的なご協力をいただいた。各学校、先生方のご協力を無くしては不可能な調査だったので、ここに記し、深く感謝いたします。

アンケートに回答した学生諸氏にも、感謝いたします。

文献

- 1) 矢野忠, 石崎直人, 藤井亮輔, 福田文彦他. 鍼灸師養成教育機関に在籍する学生の鍼灸医療に対する意識と要望等に関する調査研究 ②. 医道の日本 2010;69-4:83-91.
- 2) 櫻庭陽, 近藤宏, 岡田富弘, 藤枝久世. はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の卒後研修に関する調査. 筑波技術大学紀要 2015;22-2:69-71

「あん摩・指圧・マッサージ・鍼灸教員養成課程在学者の意識調査」アンケート

【はじめに】

本アンケートは、あん摩マッサージ指圧はりきゅう教員養成機関(以下、教員養成課程)に在学する方達が、何を目標として教員養成課程に進学、また在学しているかを調査し、今後のあん摩・指圧・マッサージ・鍼灸教育について考えることを目的とした基礎資料を得るために企画されています。

調査データは上記目的のための研究ならびにその発表以外に使用することはありません。また、調査データ原本は調査者のみが保有し、公開はせず、回答した個人や在籍する学校が特定されるような発表の仕方もいたしません。

なお、お手元の本調査が届いても、協力を強制するものではありません。上記目的ならびに調査データの使用にご同意いただけるようでしたら、アンケートのご回答をお願いします。

【アンケート概要】

- ・質問は全3ページです。
- ・回答方式は主に選択式、一部記述式です。
- ・回答方式については各質問の記載をお読みください。
- ・アンケートは無記名方式です。記名の必要はありません。
- ・アンケートが手元にある、教員養成課程在籍者であるご本人がご回答ください。

【倫理的配慮】

- ・本アンケートのデータ原本には調査者以外の者をアクセスさせません。
- ・本アンケートの結果を発表する場合、個人ならびに学校を特定できるような形はとりません。
- ・個人情報保護には細心の注意を払います。
- ・本アンケートに対して特定の団体・個人からの助成、補助はありません。何らかの意図のもとに特定の主旨の回答のみを集計し資料とすることはありません。

【調査実施者】

鍼 聡一郎 (社会鍼灸学研究会)

次ページよりアンケート質問と回答になります。

Q1. 教員養成過程に入学したのはなぜですか?各項目の当てはまる程度の下の数字を1つ選んで○をつけてください。「その他」を選んだ方は、具体的な内容を「」内にお書きください。

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
a. 専門学校の教員になるため	1	2	3	4
b. 基礎医学を学ぶため	1	2	3	4
c. 鍼灸・あん摩・指圧・マッサージの効効順序を学ぶため	1	2	3	4
d. 西洋医学的治療に必要な知識を学ぶため	1	2	3	4
e. 東洋医学的治療に必要な知識を学ぶため	1	2	3	4
f. 西洋医学的な治療技術を学ぶため	1	2	3	4
g. 東洋医学的な治療技術を学ぶため	1	2	3	4
h. 実習で臨床経験を積むため	1	2	3	4
i. 鍼灸・あん摩・指圧・マッサージについての研究を行うため	1	2	3	4
j. 特に目的はない	1	2	3	4
k. その他	「」			

Q2. 現在、卒業までの目的としていることはなんですか?各項目の当てはまる程度の下を数字を1つ選んで○をつけてください。「その他」を選んだ方は、具体的な内容を「」内にお書きください。

	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
a. 専門学校の教員として必要な知識、技術の修得	1	2	3	4
b. 基礎医学の知識の修得	1	2	3	4
c. 鍼灸・あん摩・指圧・マッサージの効効順序の知識の修得	1	2	3	4
d. 西洋医学的治療に必要な知識の修得	1	2	3	4
e. 東洋医学的治療に必要な知識の修得	1	2	3	4
f. 西洋医学的な治療技術を修得	1	2	3	4
g. 東洋医学的な治療技術を修得	1	2	3	4
h. 実習で臨床経験の蓄積	1	2	3	4
i. 鍼灸・あん摩・指圧・マッサージについての研究成果	1	2	3	4
j. 特に目標はない	1	2	3	4
k. その他	「」			

Q 8. 教員養成過程入学前に、鍼灸あるいはあん摩・マッサージ・指圧の臨床経験はありますか?あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1. 臨床経験はない
- 2. 資格取得後1年以上3年未満
- 3. 資格取得後3年以上5年未満
- 4. 資格取得後5年以上7年未満
- 5. 資格取得後7年以上9年未満
- 6. 資格取得後9年以上11年未満
- 7. 資格取得後11年以上

Q 9. 教員養成過程入学前に臨床経験のある方は、どのような場所で臨床に従事していましたか?当てはまるものすべてに○をつけてください。「その他」を選んだ方は、**具体的な場所を「」内にお書きください。**

- 1. 鍼灸院
- 2. 鍼灸往診
- 3. 鍼灸接骨院
- 4. 鍼灸あんま指圧マッサージ治療院
- 5. あん摩マッサージ指圧治療院
- 6. 接骨院
- 7. 医院
- 8. 病院
- 9. 福祉施設
- 10. 美容系施設
- 11. スポーツ関連施設(スポーツチーム所属等を含む)
- 12. 海外で従事
- 13. ボランティア活動で従事
- 14. その他 []

Q 10. 以下の事項について教えてください。

- a. あなたの年齢 ()歳
- b. あなたの学年に○をつけてください。 1年 2年
- b. あなたの性別に○をつけてください。 男性 女性
- c. 鍼灸、あん摩・マッサージ・指圧以外の医療職の免許をお持ちの方は、その免許の種類を [] 内にお書きください。 []

質問は以上です。お忙しい中ご協力頂きましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。
なお、調査結果につきましては、要約を後日学校へお送りします。

Q 3. 今、卒業後の第一希望としている進路は何ですか?1つ選んで○をつけてください。
「進学」を選んだ方は、その後の [] 内に志望する専門領域を具体的に**お書きください。**また、「その他」を選んだ方は、**具体的な内容を [] 内にお書きください。**

- 1. 専門学校専任教員
- 2. 専門学校非常勤教員
- 3. 鍼灸、あん摩・指圧・マッサージに関する研究者
- 4. 治療院勤務
- 5. 病院・医院勤務
- 6. 福祉施設勤務
- 7. 美容系施設勤務
- 8. スポーツ関連施設勤務(スポーツチーム所属等を含む)
- 9. 治療院開業
- 10. 専門学校教員兼治療院勤務
- 11. 専門学校教員兼病院・医院勤務
- 12. 専門学校教員兼治療院開業
- 13. 海外で治療者として就業
- 14. 専門学校進学 [専門領域]
- 15. 大学院進学 [専門領域]
- 17. その他 []

Q 4. 鍼灸師に一定期間の卒業研修が必要だと思いますか?当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. 必要
- 2. 必要ではない
- 3. どちらともいえない

Q 5. 教員養成過程入学資格となる免許のうち、**お持ちのものすべてに○をつけてください。**

- 1. はり師
- 2. きゅう師
- 3. あん摩・指圧・マッサージ師

Q 6. 05でお答えいただいた免許をいつ取得されましたか?西暦で**お答えください。**複数年にまたがる方は、**最も早く免許を取得した年をお書きください。**

西暦 ()年

Q 7. 免許修得後、何年で教員養成過程へ入学しましたか?あてはまるもの1つに○をつけてください。複数年にまたがって免許を取得した方は、**最も早く免許を取得した年を基準にしてください。**

- 1. 資格取得年
- 2. 資格取得後1年以上3年未満
- 3. 資格取得後3年以上5年未満
- 4. 資格取得後5年以上7年未満
- 5. 資格取得後7年以上9年未満
- 6. 資格取得後9年以上11年未満
- 7. 資格取得後11年以上